

令和6年度 第3回 浪江町環境審議会 議事録

■日時：2025年2月21日（金） 10：30～12：10

■会場：浪江町役場本庁舎 4階全員協議会室

■出席者：（委員）五味会長、河野委員※、沼田委員※、赤田委員、鈴木委員、佐藤委員、菅野委員、伊藤委員※、前司委員※ ※はオンライン出席
（事務局）産業振興課 蒲原課長、小林係長、藤坂
住民課 柴野課長、佐藤課長補佐兼係長
国際航業 深田氏、今野氏、鈴木氏

■次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 協議事項
 - ① 浪江町環境基本計画について
 - ② 浪江町環境基本計画骨子(案)について
 - (2) その他
 - ・今後のスケジュールについて
- 4 閉会

■配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料1：出席者名簿
- ・ 資料2：座席表
- ・ 資料3：議事(1)協議事項
- ・ 資料4：議事(2)その他
- ・ 補足資料：浪江町地球温暖化対策総合計画

■議事録

1. 開会あいさつ	
事務局	ただいまから令和6年度第3回浪江町環境審議会を開催いたします。 まず、開会にあたって事務局の蒲原課長、環境基本計画担当課の柴野住民課長より挨拶をいたします。
蒲原課長	あいさつ
柴野課長	あいさつ
2. 議事	
事務局	それでは議事に入らせていただきますが、議事進行については会長である五味先生にお願いいたします。
会長	～会長あいさつ～ それでは次第に沿って進行します。 議事（1）確認事項①浪江町環境基本計画について、事務局より説明をお願いします。
議事（1）協議事項①浪江町環境基本計画について	
事務局より資料3に基づき、環境基本計画骨子(案)について説明を行った。	
会長	事務局からの説明について質問等がありますか。
委員	今回の環境基本計画は、下位計画に地球温暖化対策基本計画のみがあるように見えるのですが、ほかにも関連計画があるという認識でよろしいでしょうか？
柴野課長	環境に関わる諸計画があり、今回は主だった計画のみを記載しております。各種関連計画、例えば、森林整備計画や景観計画、一般廃棄物処理計画などもございますので、調和を取りながら計画を策定していきたいと考えております。
委員	福島県カーボンニュートラル条例との関連についても、位置づけの中に入れたほうが良いと思いました。カーボンニュートラル条例は制定済みですが、実施計画は審議会で議論中であり、来年度末を目処に策定予定となっております。整合性、連動を意識して環境基本計画を作成するのがよいと思います。
事務局	関連計画を精査し、いただいたご意見やボリューム感なども踏まえ進めていきたいと思っております。
事務局	今回の骨子の中には全ての事項を反映できておりませんが、来年度、作成までの1年間、最新動向を反映したものに仕上げていきたいと思っております。本日いただいたような動向につきましても、都度、ご指摘、ご助言をいただけますと幸いです。
議事（1）協議事項② 浪江町環境基本計画骨子(案)	
事務局より資料3に基づき、国際航業様より環境基本計画骨子案について説明を行った。	
会長	事務局からの説明について質問等がありますか。

委員	ゼロカーボンシティの実現のためには、再生可能エネルギーの導入が大きいと思いますが、風力の大半が帰還困難区域ということはわかりますが、実際に設置可能な容量はどのくらいなのでしょう。
事務局	こちらは令和5年度策定の地域温暖化対策総合計画の中で行った結果が示されており、この調査の前提が、土地利用計画と掛け合わせた分析ではなく、風車を建てられる場所として、山間部に非常にポテンシャルがあるという結果となっております。ほとんどの場所が帰還困難区域の山林という状況となっており、環境再生状況を見ながら、山林の環境再生、帰還困難区域の再生、土地利用の方向性を検討していくこととなり、現時点では検討の段階にはない状況でございます。
委員	ありがとうございます。そのあたりも検討していただければと思います。
委員	地球温暖化対策総合計画 35 ページの風況のマップを基にしており、北西側の山の上、尾根、そういった所に風が強く吹くためポテンシャルが高い結果となっている事、帰還困難区域での作業などいろいろな課題がある事を理解しました。将来的には、この土地利用についても検討していく必要があると考えています。
委員	私は農業分野として、宮城県で営農型ソーラシェアリングを調整していますが、岩手県遠野市では、陸上風力の騒音等の問題や太陽光発電の許可制への変更に伴うトラブルなどが起きています。地域のコンセンサスをしっかりとやることが重要であり、アンケート結果では自然に配慮すべきという意見も出されていますので、先行事例を参考にしながら様々なことをやってみたほうがよいと思います。
事務局	これまで「固定価格買取制度（FIT）」を活用した再生可能エネルギー事業が進められておりますが、今後は「再エネ特措法」も踏まえ、地域と共生できる再生可能エネルギー事業を進めていきたいと思っております。許可制などについても、町の政策にフィットするようであれば積極的に取り入れ、事例研究等も進めていきたいと思っております。
委員	2月18日に地球温暖化対策計画が閣議決定されましたが、太陽光に対して力を入れていくと示されました。風力発電、事業的に洋上風力もトラブルが多いという話もあります。今回、農水省の補正予算として38億円、太陽光に対する補助金が出ており、今後は本予算になっていくと思われます。最多で2億3000万円まで、1事業に対して出るということになります。これまで私たちも補助申請をしてまいりましたが、市町村の計画に則った形での事業なのか、そういったところが重要視されています。事業側としては設備投資がかなり大変で、補助金や町の支援が極めて重要であり、事業者はこのような情報を知らないケースが多いのではないかと思います。計画を立てるにあたり、適切な情報提供が必要となり、補助金に寄与するような、事業側が入れやすい計画にしていく事が重要と考えます。
柴野課長	ピンポイントの分野的な話だけではなく、環境全般について啓発し、しっかりと広報できるような形で環境基本計画の中に踏まえていきたいと思っております。

委員	町民アンケートの方でも自然環境の保全が一番上げられておりますし、温暖化対策だけでない環境の計画ですので、そういった面に配慮できるような方針を示していただければと思います。
委員	町民にとって一番の関心事は生活環境です。一人当たりのごみの排出量は増えているようですが、町民以外の生活ごみが影響しており、個人的には町民の生活ごみは減っているように思います。一番の問題は、収集箱・ごみ箱の設置場所です。区長管理となっておりますが、設置場所がほとんどなく、道路であると占用届け、行政の場所であると年間申請が必要となります。道路を造る際に一緒にごみ箱を設置するなどを考えないといけません。ごみ箱をステンレス製に変更したことによってガラスが劇的に減少、環境問題への効果は顕著でした。このように、ごみの対処の仕方が重要だと考えています。
事務局	震災後、ごみステーションの管理等については区長にご協力いただいておりますが、住民が住んでいない場所に設置されており、適切な場所に置かれてない状況が散見される状況でございます。ステーション自体は行政側の物ではなく、まだ住民の方が戻ってこられないところを踏まえ、代わって管理させていただいております。環境基本計画の中でどのように記載すべきか検討しなければいけませんが、様々な問題が出ている所もあり、問題解決のために何か実施していければと考えております。ご意見をいただきながら適正な処理ができるよう、進めていければと考えております。
委員	論点として、二つお伺いしたいと思います。一つ目は、現状において CO2 排出量データがないのは話にならないと思います。浪江町が、現状としてどれだけカーボンニュートラルが進んでいるのかを示した上で施策を検討する必要があると思います。二つ目は、浪江町は水素の取組みや F-REI が特徴的ですが、水素は計画のどこに位置付けられるのかが疑問です。水素のエネルギーフィールドもあるので、そこを意識した環境案を作るべきだと思いますが、水素の位置づけ、カーボンニュートラルとの関係などについて、ご見解を聞かせていただければと思います。
事務局	一つ目の CO2 排出量につきましては、令和 5 年度の地球温暖化対策実行計画を策定した際に推計済みという認識で骨子案には割愛されております。環境基本計画の中には、これまで推計したものを記載したいと考えております。2025 年度の推計値につきましても、可能な限り対応させていただきます。二つ目の水素につきましては、象徴的で可能性のあるものですが課題もたくさんあります。計画策定の視点の中で、浪江らしさや強みを活かすとございますので、計画の中にも反映をさせていければと思っております。計画策定の記載内容が具体化した際、諸々確認していければと思います。
委員	水素について、環境基本計画には書き込みにくいと思うが、位置づけはどのようなのでしょうか？

委員	現状の CO2 排出量については、震災からの復興途上ということで、計算や位置づけが難しい状況です。温暖化対策基本計画にある 2020 年度の排出量は 25,000 t で、これは吸収量より少なく、既にカーボンネガティブとなる計算です。目標どおり復興が進めば、2050 年までには今の 2.5 倍程度の増加が見込まれ、それを 4 万トン程度に抑えることが目標となります。また、地域内で作っている再エネを地域外で使った場合、例えば、浪江で作った水素を東京で使った場合、脱炭素効果は東京でカウントされるというのが現状のルールです。地域外での脱炭素への貢献といったものを、別途記載するのはいいと思いますが、浪江町の CO2 排出量の削減効果としてはカウントされないということになります。
委員	アンケート配布数についてですが、在住者より町外避難者のほうが多いにも関わらず、町外避難者への配布数がだいぶ少ない点が気になります。町内在住者 700 名に対して、町外避難者は 300 名。また、小中学生向けのアンケート数が少なく、有害物質問題や SDGs 等の理解が不十分で、適当に回答している懸念もあります。あくまで参考程度にしたほうが良いのではないかと考えますが、いかがでしょうか。
事務局	アンケート数の根拠につきまして、町外避難者については震災後 13 年近く経過していることから浪江町内への帰還の意向がある方が少なくなっているのではないかと考えました。それよりも町内在住者の意見をより多く聞くべきと考え、7 対 3 の配分としました。小中学生のアンケート数が少ないことは認識しております。アンケート内容の理解度につきましては、職員が直接学校のほうに出向き、教員と連携しながら分りやすくかみ砕いて説明し、なるべくご理解いただけるよう努力いたしました。
委員	小中学生と一般の人に同じ質問をしているように見えますが、選択肢が微妙に異なっているのでしょうか？結果を外部に出すのであれば、選択肢や表現を一部変更していることを記載するなどの工夫は必要だと思います。
国際航業	ご指摘ありがとうございます。アンケート項目のベースは同じ質問ですが、一部選択肢を変更しております。記載の結果は抜粋であり、別途アンケート報告書を作成しておりますので、提供は可能です。
委員	有効回答率が約 30%強あり十分だと思います。一方、アンケートに回答する人は元々関心が高いと考えられるため、いわゆる抽出バイアスがあることには注意したほうがよいと思います。
委員	弘前大学が町民の方たちから直接お話を聞いたり、学校教育施設などでいろいろお話を伺ったりしていますが、今回のアンケートを見ると、このような結果になるだろうなという印象を受けました。小学校の高学年の子たちも、SDGs の教育は受けておりますし、ある程度理解の上で回答しているのではないかと思います。将来のまちの環境づくりを担う人材の意見として受け取ることは、とても良いと考えます。町民の方が一番関心のあることは、生活環境であり、将来の町を担う子たちの人

	材育成です。学校からも環境媒体を使った学習等が必要だという話がありました。現場学習ができない事もあり、体系としては、重要な視点はカバーできていると感じました。
事務局	ありがとうございます。本日いただいた意見をしっかりと反映しながら、骨子につなげていきたいと思います。
委員	震災後 14 年経過していますが、この間、さまざまな大学や研究者が、浪江町の動植物や生態系について研究されています。そういった研究事例や意見を計画づくりに活かさないものかと思います。内水面漁業に関しては、まだまだ回復していませんが、町民から釣りをしたいというような意見も多いため、そのあたりも検討していただければと思います。
事務局	町内でさまざまな取り組みがされており、成果報告を多数いただいていることは認識しております。また、浪江町は国が定めた特別除染地域に指定されているため、国の直轄で除染作業が行われております。まだまだ足りていない部分があることを認識しながらも市町村で対応できていないのは、このような枠組みの中で実施しているところがございます。また、さまざまな大学や研究者による研究事例や意見を国に伝えられるような流れを作っていきたいと思っておりますので、今後、このような取り組みを逃さず、拝見させていただければと思っております。 自然環境の保護・保全を目標に挙げており、計画に反映させ、町民の皆様が安心できるような状況にできるか、はっきりとお答えできませんが、できる限りの形を作っていければと思っております。
委員	国立環境研究所の研究者も浪江町で調査させていただいており、他の研究機関の研究者の情報もあります。研究成果を十分に活かせてないということに問題があると強く感じております。環境基本計画の話でいえば、F-REI の知見を活かすようなことをしっかり記載していただければと思います。F-REI が地元にあることで非常に有利な立場となりますので、これを活用しない手はないと思います。研究事例やさまざまな知見・技術を、浪江町の課題や問題に活かされる流れをつくることを自治体としてお示しいただくと良いと思います。
議事（２）その他	
事務局より資料５に基づき今後のスケジュールについて説明を行った。	
会長	以上の説明について質問等ありますか。 無いようであれば、本日予定していた議事について、全て終了しましたので、進行を事務局にお返しします。
４．閉会	
事務局	ありがとうございました。 皆様貴重なご意見ありがとうございました。 引き続きよろしくお願いいたします。